

産学連携コーディネート 優良事例

【NPO法人 近畿アグリハイテク支援】

◆都市域直売切り花の需要に対応する特定日開花・常温品質保持技術の開発 (2010～2012年度)

共同研究機関: 大阪府環境農林水産総合研究所(中核機関)、京都府立大学、(独)農研機構・近畿中国四国農業研究センター、兵庫県立農林水産技術総合センター、奈良県農業総合センター、和歌山県農林水産総合技術センター、クリザール・ジャパン株式会社、大阪府南河内農と緑の総合事務所

研究概要: 花き産業全般が低迷する中、都市近郊の農産物直売所では花の販売が好調で、農業者の生産意欲の向上と消費者の花に対する購買意欲の向上に貢献している。

課題は需給ミスマッチによりロス・欠品率が高く、経営効率が低いことである。そこで、特定日開花・品質保持技術の開発と、これをマネジメントする需要予測とその工程管理技術を開発することで、ジャスト・イン・タイムでの地域内供給を実現し、直売切り花の戦略的販売を推進する。



課題提案者の感想: 産学官連携コーディネーターの支援に対して



大阪府環農総研
豊原憲子主任研究員

当初は社会科学を中心とした、かなり漠然とした内容のまま共同研究推進会議に出し、ブラッシュアップをお願いしました。近畿アグリハイテクのコーディネーターからは、課題の整理の仕方について、客観的意見をいただくとともに、課題解決に必要な研究者の紹介を頂き、技術的課題にまとめることができました。また、早い段階で農政局の方々との意見交換の場を設定いただいたことも、行政施策との整合性を考える点で大きな自信になったと考えています。